

審査員からのコメント

【岸本葉子さん・エッセイスト】

「心の苦しみ」のタイトルの示すとおり、展示物に込められた「思い」を知るという、自分なりのテーマを設定し、再訪した姿勢に打たれる。昭和館で読んだ兵士の妻子に充てた手紙と、家の曾祖父が残した手記とを重ね合わせ、銃後の人々の苦しみと出征兵士の苦しみとの両方をとらえ、80年の時を超えて「自分事」として感じている。過去の戦争にとどまらず現在も世界にある紛争に思いをいたし、平和のためにできることを考えている。

【関沢まゆみさん・国立歴史民俗博物館教授】

小林さんの「心の苦しみ」は、昭和館でみた兵士の家族への手紙から、外地での曾祖父の戦争体験について8年間も手紙の兵士たちのように、家族に会えない苦しみを味わっていたのかと想像し、それまで他人事だった戦争が身近なものになったという変化が書かれています。そして、現在のロシアとウクライナ、イスラエルとパレスチナの戦闘に関わっている兵士とその家族へも想いを寄せているところがよいと思いました。

【伍藤忠春・昭和館館長】

昭和館を二度も訪問して考えをまとめた熱意に感動しました。

曾祖父から聞いた具体的な話を、昭和館の歴史資料(戦没者数など)や現代の地域紛争と関連付けて考える想像力や共感力を感じさせます。